令和3年度 京都市立紫野小学校 総合的な学習の時間「紫野タイム」 全体計画（R3.5 現在）

≪児童の実態≫

・規範意識が育ってきている
・主体性に課題がある
・情報モラルが未熟
・行き渋りや遅刻，不登校児童が多い
・自己肯定感や自己有用感が低い児童が多い

学校教育目標

夢に向かって自ら未来を切り拓く子どもの育成

一人一人を徹底的に大切にし，「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める教育の推進

スローガン **『夢・輝き・やさしさ あふれる紫野』**

・協働して主体的に学び合う子ども
・よりよい人生をたくましく生き抜く子ども
・共に生きる人権文化の担い手となる子ども

育てたい資質・能力 **・主体性 ・自律性 ・進取の気性**
・情報活用能力 ・探究力 ・問題解決力 ・運動能力

≪地域の実態≫

・楽只校と統合した（令和元年度）
・史跡・旧跡が多い
・市街地に位置する
・商店街がある ・落ち着いた雰囲気
・保護者及び地域の人は教育活動に協力的
・地域行事及び取組の内容が豊富
・少子高齢化 ・独居老人の増加
・空き家の増加

≪保護者の願い≫

・「確かな学力」の向上
・豊かな人間性の育成
・健やかな体の育成
・安定した学校生活
・学校行事及び地域行事の充実

≪「紫野タイム」の目標≫

探究的な見方・考え方を働かせ，具体的な活動や体験を通して，地域や身近な自然・社会・文化等に触れ，自らの課題を見付け，見通しをもって課題に取り組む意欲を育て，学び方や調べ方の技術を身に付け，友達とともに協働して解決を目指し，生活の向上を図る資質・能力を育成する

≪地域の願い≫

・保護者と地域と学校が協働して児童を育てる
・地域行事及び取組に児童が積極的に参加する

（1）探究的な学習の過程において，地域や身近な自然・社会・文化等にふれる活動や体験を通して，課題に対する考えを深めるとともに，探究的な学習のよさを理解するようにする
（2）地域の素材や人材などから，自ら課題を見付け，得られた情報をもとに他者と考えるための技法を活用しながら整理・分析し，目的に応じてまとめ・表現するようにする
（3）探究的な学習に主体的に学び合い高め合うとともに，学んだことを自分の生活及び将来に生かしたり，よりよい社会参画の仕方を考えたりする態度を育てる

≪学校が定める内容≫

目標を実現するにふさわしい **探究課題**	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な **資質・能力**		
	知識及び技能	**思考力・判断力・表現力等**	**学びに向かう力・人間性等**
3年生 まち ～もの～ 4～10月 全45時間 **地域や学校の特色に応じた課題（地域経済）** ・地域にある『船岡共栄会（商店	・地域の『商店街』として何十年と続いてきた『船岡共栄会』の「昔・今」の状況を理解し，それを愛する人たちと，その維持・再生のために努力している人々とともに，自分たちには何ができるか，理解している。 ・インタビューの仕方を理解している。アンケート調査の仕方を理解している。	・鞍馬口通の『商店街』にあるお店に関する情報やお店で働く人たちの考えを比較したり，関連付けたりしながら，これからの『商店街』の維持・再生に向け，よりよい方法や考えをつくり出している。 ・鞍馬口通の『商店街』に対する自分の思いや考えを，体験や交流に基づく複数の具体的	・学習の中で出会った鞍馬口通の『商店街』の人たちや保護者の人たち等に伝える活動を通して，地域の人の紫野に対する愛情の深さを感じ，自分たちも進んでこの地域をよりよくしていこうとする。

街）』の人たちの維持・再生に向けた思い，願い，工夫（『商店街』という組織や活性化に取り組む人たちの思い，願い，工夫）	・考えるための技法（順序付ける・比較する・分類する）を知る。	な根拠とともにまとめ，伝え合っている。	
3年生 まち ～もの～ 11月～2月 全25時間 **横断的・総合的な課題（情報）** ・自分たちのまちの商店街のことについて，より多くの人に伝えられる喜び（プログラミング操作を通して，情報発信することのよさ）	・身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付いている。 ・自分たちのまちの商店街のことについて，プログラミング操作を通して，より多くの人に伝えられるよさに気付いている。	・自分たちのまちの商店街のことについて，より多くの人に伝えるために，「どのような」情報が必要なのか，よりよい方法や考えをつくり出している。 ・自分が意図する一連の活動を実現するために，どのような動きの組合せが必要であり，一つ一つの動きに対応した記号を，どのように組み合わせたらいいのか，記号の組合せをどのように改善していけば，より意図した活動に近づくのか，といったことを論理的に考えようとしている。	・学習の中で出会った鞍馬口通の『商店街』の人たちや保護者の人たち等に伝える活動を通して，地域の人の紫野に対する愛情の深さを感じ，自分たちも進んでこの地域をよりよくしていこうとする。よりよくする方法の一つとして，コンピュータの働きを今後も活かそうとする。
4年生 伝統 ～こと～ 5月～2月 全40時間 **地域や学校の特色に応じた課題（伝統文化）** ・古くから地域に伝わる「玄武やすらい祭」を継承する人々の思い，願い（地域の人が守り，受け継ごうとするよさ）	・「玄武やすらい祭」の「昔・今」の状況を理解する中で，それらを守り，受け継ごうとする人々の思い，願いに気付き，自分たちには何ができるか，理解している。 ・考えるための技法（理由付ける・見通す）を知る。 ・「玄武やすらい祭」のことについて，プログラミング操作を通して，より多くの人に伝えられるよさに気付いている。	・「玄武やすらい祭」を継承する人々の思い，願いに関する情報や考えを比較したり，関連付けたりしながら，伝統を守り，存続していくことに向け，より多くの人に伝えるために，よりよい方法や考えをつくり出している。 ・「玄武やすらい祭」を守り，受け継ごうとすることに対する自分の思いや考えを，「だれのための」「何のための」「どのような」祭であるべきなのかを踏まえ，相手や目的に応じて伝え合っている。	・「玄武やすらい祭」の素敵さに気付き，地域の人の思い・願いに触れることで，自分も地域の一員であるという自覚を高めるとともに，紫野に対する愛着と誇りをもって地域の行事に参加しようとする。より多くの人に伝える方法の一つとして，コンピュータの働きを今後も活かそうとする。
4年生 福祉 ～こと～ 10月～2月 全30時間 **横断的・総合的な課題（福祉）** ・視覚障害やその他の障害のある方々の思いや願い （すべての人とよりよく関わり合うことの大切さ）	・「京都ライトハウス」の施設の工夫や，そこで働く人及び利用者の思いや願いについて理解している。 ・視覚障害やその他の障害のある方々との関わり方について考えることで，すべての人とよりよく関わり合う方法について考えることにつながることを理解している。 ・考えるための技法（理由付ける・見通す）を知る。	・視覚障害がある方にインタビューしたり，アイマスク・手話体験を通して感じたことや考えたことを友達と交流したり，「パラリンピック」について学んだりすることを通して，視点にそって分類・整理し，自分が実践できることと結び付け，考えようとしている。	・相手のことについて詳しくかつ正しく知ることで，偏見を無くし，相手に対する理解を深め，その相手へのよりよい関わり方について探ろうとする。それに加えて，学校や地域のために役立つことを実践しようとする。 ・校区にある「京都ライトハウス」や「パラリンピック」について，興味・関心を高める。
5年生 防災 ～人～ 5月～11月 全30時間 **横断的・総合的な課題（防災）** ・自然災害が起こった時の自分や地域の守り方 （自助・共助・公助の必要性）	・身近な地域の人への調査活動やゲストティーチャーのお話を通して，自主防災の意義について自分なりに理解している。 ・身近な地域の人と関わることを通して，よりよい生活や生き方を高めることの大切さを理解している。 ・学校や地域のために力を尽くす人たちの思い・願いについて理解している。	・自助，共助，公助の調査や体験から，自分なりに判断して行動する。 ・身近な地域の人への調査活動やゲストティーチャーの講話を通して，自己の生き方や考え方を見つめ直し，これからの地域について考える。	・自助，共助，公助を大切にし，自ら行動することで，よりよく生きることにつながる素晴らしさを知り，より高い目標を立て，希望や夢をもって生きようとする。それに加えて，人のために，学校や地域のために役立つことを実践しようとする。

	・考えるための技法（関連付ける・多面的に見る・多角的に見る）を知る。		
5年生　生き方（キャリア）　～人～ 5月～11月　全40時間 **児童の興味・関心に基づく課題（キャリア）** ・働くこと，自分らしく生きることの大切さや将来展望（働くことのよさや意義そして将来展望）	・身近な地域の人への調査活動やスチューデントシティ学習を通して，働く意義や仕事のやりがいについて自分なりに理解している。 ・身近な地域の人と関わることを通して，よりよい生活や生き方を高めることの大切さを理解している。 ・学校や地域のために力を尽くす人たちの思い・願いについて理解している。 ・考えるための技法（関連付ける・多面的に見る・多角的に見る）を知る。	・人のために，学校や地域のために働く，もしくは生きる人たちに共通する「思い」について話し合った結果，前向きに自己の生き方を見つめ直し，将来について考える。 ・自分の思い描いた将来の理想像の達成に向けて，必要だと考えられる「思い」をもとに，現在の自分が人のために，学校や地域のために役立つことは何かを考える。	・働くこと，また自分らしく生きることで，よりよく生きることにつながる素晴らしさを知り，より高い目標を立て，希望や夢をもって生きようとする。それに加えて，人のために，学校や地域のために役立つことを実践しようとする。
6年生　SDGs　～未来～ 4月～10月　全45時間 **横断的・総合的な課題（情報）** ・よりよい未来をつくるために，自分たちにできることを実践に基づいて発信することの喜び （情報発信することのよさ）	・SDGsの17の目標について内容や原因を理解する。また，実践したことをまとめて，より多くの人に伝えられるよさを理解している。 ・考えるための技法（構造化する）を知る。	・SDGsの目標について調べた情報を，比較・分類しながら，自分たちにできることについて，よりよい方法を考えている。 ・情報発信することは，責任を伴うことであり，「だれのために」「何のために」「どのような」情報が必要なのか，よりよい方法や考えをつくり出している。	・未来をよりよくするために，自分たちにできることを実践しようとする。 ・自分たちができることについて，相手意識と目的意識をもって，より多くの人に伝える活動を通して，未来をよりよくしていこうとする。
6年生　人権問題　～心～ 11月～3月　全25時間 **横断的・総合的な課題（人権）** ・人権が守られる社会を目指すためにできること（今ある人権問題，）	・自分たちの通う小学校区に住む戦争体験をした人の話を聴いたり，あらゆる人権問題についての現状を調べたりして，世の中には多くの人権問題があることを理解している。 ・考えるための技法（構造化する）を知る。	・社会科の学習で学んだことを活かしながら，あらゆる人権問題を，身近なところから見つめ直し，未来の世界のあるべき姿について考える。 ・ゲストティーチャーの話を聴いたり，見学したりすることを通して，今の自分たちにできることは何かを考える。	・身近な人権問題に目を向け，情報を整理しながら正しく知ろうとする。 ・自分たちの生きる世界は人権が守られるべきだということに気付き，自分たちにできることを実践しようとする。

≪指導方法≫

探究過程の工夫　カリキュラム・マネジメント

●ねらいを明確にした体験活動　●指導と評価の一体化

●言語活動の工夫

（新聞づくり・プレゼン発表・付箋紙を用いた活動・ホワイボードの活用等）

●学習形態の工夫

（心内対話・ペア対話・グループ・学級全体・学年全体・学校全体）

≪指導体制≫

全教職員で，ひとりひとりの子どもを指導

●研究委員会を中心としたカリキュラム・デザイン

●（研究委員会と学力向上部が，連携を図り）PDCAサイクルの中でカリキュラムの改善

●内外リソースの活用

（保護者・地域の人・地域の施設・公共団体・周辺の中学校・高等学校・大学等）

●担任外の教職員による支援体制　●校内の学習環境の整備

≪学習の評価≫

個人内評価　ポートフォリオ評価

●ポートフォリオの作成

●毎時間のふりかえりを中心とした個人内評価の重視

●授業観察

●児童へのアンケート　●保護者へのアンケート

●保護者・地域の人から意見を聴取